

子育て支援教育



山野千佳子 議員

保育料無償化で変わったか

〈民生部長〉

10月から待機児童が5人発生。12月では10人となった。

〔Q1〕 保育料の無償化が始まり、待機児童は増えたか。

〔A1〕 無償化が理由ではないが、育児休業明けの入所児童が8人増。9月まで待機0だったのが、10月に5人、12月では10人となった。

〔Q2〕 待機が生じているが、その要因は何が考えられるか。

〔A2〕 女性の社会進出や、早く職場復帰したい傾向があり、0歳〜2歳の入所希望が増えている。

〔Q3〕 待機0には施設の定員増の必要があるか。

〔A3〕 昨今、育児休業からの職場復帰が早く、0歳児は保育基準が厳しいため、年度途中の保

育士確保が困難なので難しい。

〔Q4〕 保育士確保に他市町は色々な補助金を出しているが、支援策はあるか。

〔A4〕 今後は他市町の動向などを見て、研究・検討する。

〔Q5〕 無償化により、保育料の便乗値上げが社会問題となっているが、町内の調査はされたか。

〔A5〕 この度は値上げはなかったが、もしあれば町が指導していく。



中島数宜 議員

道路交通

バス利用者駐車場の管理等は

〈町長〉

広島県が造成・施工し、昭和60年4月供用開始後は、県と町で管理等を役割分担している。

〔Q1〕 放置車両が多いのではないかと。適正利用に向けた対策を考えているか。

〔A1〕

放置車両が見つければ県が張り紙等により所有者に撤去を促し、それでも移動がない場合には警察に相談し、対応していると伺っている。町においても放置車両を発見した場合、県に順次報告している。

〔Q2〕

常に満車状態で、入り口道路にも駐車している。目的外の駐車があるのではないかと。その対策は。

〔A2〕

バス利用者の乗り継ぎを目的とした看板を3カ所設置しているが、新たな追加看板の設置と、駐車場内のパトロールを適宜実施し、該当

車両を発見した場合に県に報告する。

〔Q3〕

定期的に清掃を実施しているとのことだが、その頻度は。ごみも散乱し、落ち葉等で側溝が埋まっている。定期的に清掃しているように見えないが。

〔A3〕

月1回程度、町の臨時職員により定期的に清掃を実施している。しかしながら、平成30年7月豪雨の対応で、草刈り、側溝清掃、竹木の伐採等ができなかったため、現在実施中。

〔Q4〕

駐車スペースを示す白線が消えている。区画線の引き直しができるか。

〔A4〕

要望があったことを管理主体の県に伝える。



竹爪憲吾 議員

熊野トンネルの無料化に伴う県道等の整備計画は

〈町長〉

本町も含めた関係機関において円滑な移管が行えるよう対策を進めている。

〔Q1〕

令和2年12月の熊野トンネル無料化に伴い、町内の道路整備計画は。

〔A1〕

一時中断されている川角交差点東側の県道矢野安浦線の拡幅が再開され、また、熊野郵便局付近から県道瀬野呉線につながるバイパス部分も再開される。

〔Q2〕

トンネル通過後、海田大橋付近までの道路整備の予定は。

〔A2〕

交差点改良や信号の時間調整等が行われる予定で、熊野町方面から海田大橋方面へのオンランプは既に整備され、暫定供用している。

〔Q3〕

具体的にどの交差点が、どのように、いつまでに改良されるのか。

〔A3〕

海田大橋入口交差点の海田方面への右折レーンが二車線に増設され、平谷交差点、熊野から最初の土居交差点、矢野駅入口の小越交差点では、信号の調整が行われる。

〔Q4〕

阿戸別れ交差点、町民会館入口交差点の改良計画はどうなったか。

〔A4〕

計画はあるが災害復旧優先で中断されている。早期の着手を働き掛けたい。

〔Q5〕

無料化後、トンネル内や周辺の管理は。

〔A5〕

管理事務所は閉鎖され、県や市が一般道路として管理し、業者委託で維持管理される。

くまの・こども夢プラザを熊野版ネウボラの拠点に

〈町長〉

夢プラザを中心に、子育て支援の充実を図る。



光本一也 議員

〔Q1〕 夢プラザを子育て世帯包括支援センターとして位置づけ、母子健康手帳の交付を。また、夢プラザに子育て経験豊かな保健師の配置を。

〔A1〕

「ひろしま版ネウボラ」では、中学校区毎に拠点を置き、子育ての相談窓口を設けることとなっている。「熊野版ネウボラ」を推進するためには、保健師、保育士など専門職のセッ配置は欠かせないものと考えます。ネウボラの拠点となる夢プラザに保健師を配置し、母子健康手帳の交付を行いたい。

〔Q2〕

戦略的広報でネウボラ事業の住民周知を。

〔A2〕

子育てガイドブック



▲くまの・こども夢プラザ

※ネウボラとは 妊娠から出産、子育てまでを切れ目なく支援する仕組みです。フィンランド語で「アドバイスする場所」を意味します。

の内容の拡充と併せ、より多くの方の手に渡るよう配布方法を検討する。ホームページへの掲載もしつかり行う。スマホアプリの「こふでりんLINE」には、子育てに役立つ情報を適宜届け、多くの子育て世代の皆さんに登録いただけるよう啓発に力を入れていきたい。